

1. 自己紹介・日程確認

2. 学級開き・国語実践報告(記録、映像)・検討

学年	教材	検討内容
6年 I学級	学級開き  「創造」	前回の研究会を受け、「要求して、させて、ほめる」「いいところをメモするくらい覚えておき、後で評価する」などに意識して学級開きに臨んだ。  授業のテンポが一本調子のため、授業にドラマをつけたり、子どもたちがハッとするような緊張感のある授業を心がけたりする必要がある。 「ほめる」とは、結果をほめることではなく、何気なくやっていた価値ある行動を自覚させることである。
5年 H学級	学級開き  クログミ	子どもたちに、何気なくやっていた価値ある行動を自覚させたり、課題を与えて成長を自覚させたりすることを意識して1週間取り組んだ。  4月の授業で子どもたちに、仲間と学ぶことのおもしろさや高め合いの意欲を感じさせることを目標としたが、話を全然聴いていない子がいて、その子を中心に話を「聴く」力を身に付けさせることが今後の課題である。 ほめられることに照れる子がいても、ほめ続けた方がいい。
6年 H	春のうた	子どもが言うことを聞かなくても、先生の持っていき次第で、子どもは先生の方を向いて付いてくる。そっぽを向く子がいても、粘り強く子ども一人ひとりと向き合う必要がある。授業が成り立たない学級があっても、中学校の教材を使うなどして難しいことにチャレンジさせてもいい。
2年 M学級	学級開き	前学年で学級が崩壊していても、恐れずに、先生は子どもの前でどんと構える必要がある。子ども一人ひとりと話をしたり、交換日記をしたりするなどして、子どもとの信頼関係を築く取り組みをする必要がある。
1年 I学級	「あさ」	目をぱっちり開けて声を出すことが“明るい声”ではない。暗い声と明るい声で極端に読み方を変えて比べさせた方がいい。読む活動や書く活動などを行うにあたって、先生自身がそれぞれの活動に目的意識を持って臨む必要がある。1年生は、幼稚園や保育園と違って、学校に勉強するために来ているという意識でいるため、難しい課題を与えてチャレンジさせていく必要がある。(先生の読み方をまねして音読させる等)

3. 音楽指導について…子どもに油断させない、退屈させないことが大切である。

- (例)・曲を3回流す(3回聴いて覚えられるようにする)。→1回目の曲が終わった後に、  
「覚えた人？」と聞き、覚えた人に歌わせる(2回目や3回目も同様)  
・先生の歌声をまねして歌わせる

オペレッタ「三枚のおふだ」(3年 H学級)…ただ動いていることが“表現”ではない。

学年全体で取り組む場合には、まず自分の学級で他クラスの  
見本になれるようにしっかり指導しておく必要がある。

#### 4. 教材解釈

学年	教材	検討内容
5年 H学級	なまえをつけてよ	これまでの授業で、逆接や「てみる」に着目させて授業を展開した。今後、登場人物の春花と勇太の関係を軸として授業を展開する予定である。 その教材の面白いところを1ヶ所見つけて、子どもと議論し、力をつけさせる活動を行うといい。
2年 M学級	たんぽぽ	『たんぽぽ』は、「たり」や「てみる」「も」等の言葉にたくさん着目できる教材である。取り上げたい言葉を1つ挙げ、他のところで似たところはないか確認する活動を行ってもいい。